



中丹

農業改良

第30号

普及センターだより

\\ いっぱいとれたよ!! //



市立福知山幼稚園における えびいも食育支援

京都府中丹広域振興局 農林商工部

中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁島10-2

TEL.0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91

TEL.0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

発行

2021年
(令和3年)

“築いていこう 差別のない 明るい社会”

中丹地域で取り組む普及活動の重点課題

3か年計画(H30～R2)で
取り組んでいる2つの重点課題について報告します。

産地力強化に向けた取り組み ～万願寺甘とうの効率的産地強化～

万願寺甘とうは中丹を代表する特産野菜ですが、栽培者の高齢化などによって、近年は栽培面積が減少しており、産地の維持・拡大が課題となっています。このため、新しく栽培を始めた生産者を対象に、早期の技術習得と経営安定を目指した「万とうゼミ」をJ A京都にのくにとともに開講しています。

「万とうゼミ」は今年度で4年目になりました。当初から参加しているゼミ生の中には経験を積み、産地トップクラスの単収を実現する生産者も現れています。来年度からは、彼ら経験を積んだゼミ生を中心に、万願寺甘とう栽培の技術革新を目指し、スマート農業等新しい栽培技術にも積極的に取り組みます。



高温対策などについて現地で検討



京都府が新たに開発した安価な自動かん水装置について説明する農林センター園芸部研究員

地域の活性化に向けた取り組み ～地域の直売所で「京中丹いちおし商品」を販売！～

中丹広域振興局では、中丹地域で育まれた原料を使用し、女性目線で審査した魅力あふれる商品を「京中丹いちおし商品」として、令和2年末までに42商品を選定しました。

普及センターでは、8月上旬からあやべ特産館、やくの高原市、あやべ温泉、舞鶴ふるるファーム、J A京都にのくに彩菜館東舞鶴店の協力を得て、リレー形式で「京中丹いちおし商品フェア」として、商品のPRと販売促進を開催してきました。またコロナ禍においてイベント等が自粛される中、対面販売だけではなく、インターネットを経由して商品販売と情報発信を行うためにセミナーを開催し、販売拡大に向けた支援を行いました。



あやべ温泉でのフェア販売コーナー



インターネットによる情報発信セミナー

地域で活躍する農業士

「株式会社ファームきぬがわ」代表

福知山市 衣川 重人さん

衣川重人さんが、平成29年に「株式会社ファームきぬがわ」を設立して4年が経過しました。従業員3名とともに、夜久野町平野の農地を守ることを目標に水稲9ha、万願寺甘とう0.6haを主力として日々頑張っています。特に水稲は良食味を追求しながら、様々なコンテストや品評会に出品し、周りからの評価やアドバイスを積極的に取り入れた栽培に取り組んでいます。

会社を経営するに当たり、農業大学校生の雇用を積極的に行っており、現在2名の農大卒業生が働いています。農大の先輩にあたる衣川晴陽さんは4年目で、今は万願寺甘とうの主担当として、積極的に新しい技術等を取り入れ、収量向上に取り組んでいます。後輩の田中翔さんは明るい性格を活かして会社のムードメーカーとしてパートナーと信頼関係を築きながら、早く一人前になるために日々勉強中です。

衣川重人さんは儲かる農業を実践し、若い人が意欲を持って伸び伸びと活動できる会社づくりを念頭に、今後もファームきぬがわを発展させたいと考えています。



ファームきぬがわのみなさん
(右端が衣川さん)

『担い手養成実践農場研修』

修了者に聞く「第三者農業経営継承」

福知山市 岡本 晴樹さん

第11号

農業改良

普及センターだより

中丹

市内 第三者農業経営継承が始まる

農地や農業機械等の有形資産だけでなく、栽培技術や経営管理のノウハウなどの無形資産を含めた農業経営を家族以外の第三者に受け継いでもらう「第三者農業経営継承」が福知山市で始まりました。

これまで農家が大切に守ってきた農地を荒廃させず、若くてやる気のある就農希望者へバトンタッチする新しい手法として注目を集めています。

今回、経営移譲をする大西敏郎さんは、家族に継承する者がなく、自分が引退した後、地域の農地を守るべきか悩んでおられました。一次、新規就農者の岡本晴樹さんは同業関係の会社に勤めておられましたが、農家への思いが強く、「コシヒカリを京都市への就農相談をきっかけに、大西さんの存在を知り、就農を決めました。」「担い手養成実践農場」の研修期間中は大西さんをはじめ、3名の技術指導者から水稲、キュウリ、軟弱野菜の栽培技術を学んでおりました。

3月24日に大西さんと岡本さんの間で経営継承の時期や方法について取り決めます。

福知山市 岡本さん(左)と大西さん

10年前に岡本さんを取材した当時の記事

農業経営を家族以外の第三者に受け継いでもらう「第三者農業経営継承」で、10年前に大西敏郎さんから経営を受け継いだ岡本さん。現在、大西さんが管理していたほとんどのほ場を、岡本さんが受け継いでいます。

そして現在

10年前



晴天の下、稲刈りを行う岡本さん

経営開始時は水稲、キュウリ、軟弱野菜の栽培をしていましたが、水稲の規模拡大に伴い、2年前から水稲のみの栽培に絞りました。しかし、岡本さんは野菜栽培をしたいという思いも強く、キュウリ栽培を再開することを検討しています。

経営開始から10年が経った今、岡本さんは「家族の支えがありがたいです。このまま福知山で、農業を細く長く続けていきたいです。」と語っています。

\\ 頑張る生産者の声 //

頑張る法人

綾部市 (株) 篠営会

(株) 篠営会は綾部市篠田町を中心に、水稲、小豆、小麦、万願寺甘とうなど、約32haの経営を行っています。

そこで、小麦や小豆の防除に利用するため、昨年、京都府の「スマート農林水産実装チャレンジ事業」を活用してドローンを導入しました。これまでと比べて労力や精神的な負担を大きく軽減でき、今後は水稲の防除や追肥にも利用したいと考えています。

今年度は、京式部の試験栽培にも取り組みました。コシヒカリよりも倒伏に強く、粒が大きく、収量も多かったので、生産性向上に期待しています。これからも新しい取り組みにチャレンジしていくなど、活気のある農業を続けていきます。



(株) 篠営会のみなさん



ドローンを使った小麦の防除

スマート農業の取り組み(万願寺甘とう)

舞鶴市 仲川 輝子さん



土壤水分を確認する仲川さん

万願寺甘とう栽培でスマート農業に取り組んでいます。京都府農林水産技術センター農林センターで開発された、自動かん水装置を導入しました。水分センサーがうねの中に埋め込んであり、土壤水分が少なくなると自動でかん水を始めます。液肥混入機を組み合わせているので、施肥とかん水が自動で行えます。

自動かん水は、省力化だけでなく土壤水分を一定に保てるので、収量アップも見込め、手応えを感じています。

全国茶品評会で農林水産大臣賞を受賞！

福知山市 勝田 裕之さん

この度、第74回全国茶品評会かぶせ茶の部において、農林水産大臣賞を受賞できましたことを、大変光栄に思います。

昨年は、暖冬で萌芽が早まり、その後低温などによって生育はゆっくりとした年になりました。また、新型コロナ対策など、いつもとは違う製茶時期を迎え、昨年4月には父孝男が亡くなったこともあり、兄弟を中心に家族で茶づくりを行いました。今後も地域の生産者とともに技術向上に努め、伝統ある産地の茶業振興に貢献していきたいと思えます。



万願寺とうがらし加工品の紹介

綾部市 すまいる工房



「京都中丹いちおし商品」に選ばれました

農産加工グループ「すまいる工房」は、綾部市の中上林地域を中心に活動しています。地域で採れた野菜などを使用し、おかず類やスイーツなどの加工品を10種類ほど製造しています。

そのうち、「万願寺唐辛子しょうゆ麹漬」「万願寺みそ」「山椒みそ」「青じそみそ」は、専門家のアドバイスでパッケージのデザインを改良し、令和2年度の「京都中丹いちおし商品」に選ばれたことで、販売に弾みがつきました。

コロナ・緊急支援事業に取り組んで

▶ 事業に取り組んでよかったと語る吉川さん



福知山市 吉川 直人さん

福知山市内の小中学校が、新型コロナの影響で軒並み休校となり、学校給食用に栽培していたじゃがいもは、全て出荷できなくなりました。保管場所があれば直売などで販売することができると考え、支援事業で保冷庫を導入しました。

契約のキャンセルが急に発生しても保存が可能になり、少しずつ直売などで販売することができるので、経営安定に役立てることができると考えています。



舞鶴市 植和田園さん

舞鶴市内の小売店などでお茶の販売を行っていますが、新型コロナの影響を受け、売上は激減しました。そこで、新たな販路開拓のために「郵便局ふるさと小包便」で新茶の販売に取り組み、それに係るチラシ作成費用や出荷袋・包装紙代に支援事業を活用しました。

チラシに書いたように、後継者として孫が帰ってきたので、しっかりと経営を引き継げるように、新型コロナに負けず頑張りたいと思います。



宅配商品とロゴマーク入り段ボール箱を手にする小西さん夫妻

綾部市 小西 秀測さん

これまでは宅配や直売などで野菜や米を出荷していましたが、新型コロナの影響で売り上げが減少しました。そこで支援事業を活用し、新たにロゴマークを入れた段ボール箱を自己負担を抑えながら作成しました。

この段ボール箱を使って贈答用の顧客を確保し、販路拡大につなげたいと考えています。



「のら×たん ゆらジェンヌ」の活動紹介

「農(の)業を楽(ら)しみながら、丹(たん)精込めて農作物を育てている、由良(ゆら)川沿いの中丹地域で活動する農業女子(ジェンヌ)」のグループです。20代から50代までの女性が約30名在籍しており、農家だけでなく、農協職員や一般企業の方も参加しています。

今年度から正式な活動がスタートし、直売所やマルシェへの出品、コラボカフェの開催、ほ場の見学や経営についての勉強会等々、自主的に様々な企画をしています。農業に興味のある女性なら、職業問わずメンバー募集中です!

公式インスタグラム → [yurainenne](#)

地元スーパーとの つながりを支援

普及センターでは、地元スーパーを活用した地産地消を進めるための新たな取り組みとして、福知山市大江町の生産者にスイートコーン栽培を提案しました。

スイートコーンは早朝に収穫し、スーパー店舗に直送できるため、とても新鮮で美味しく、店頭に並べるとすぐに売り切れました。地元消費者、農家ともに満足度が高く、来年度は面積を増やして栽培を行う計画です。



畑からスーパーに直送されるスイートコーン

～農福連携の動き～

社会福祉法人ふくちやま福祉会 あまづキッチンでは、地元産原料を使用したアイスクリーム加工を行っています。令和元年度からアイスの原料確保のために、福祉施設利用者の方が福知山市三和町の榊八百丹でブルーベリーの収穫作業を担っています。ブルーベリーアイスは大変好評で、両者ともにこれからも続けていく意向です。

今年では中丹、舞鶴支援学校や福知山高等技術専門校の先生方にも榊八百丹でブルーベリーの収穫を体験する機会を設け、生徒が農業を就業体験先に選ぶ場合の作業環境や、仕事の進め方の改善点等について意見交換を行いました。



ブルーベリーの収穫を担う施設利用者

えびいも産地の再興を目指して!

中丹地域はえびいものブランド産地として認定されていますが、近年栽培者の高齢化などで出荷量が減少しています。そこで、普及センターでは、JAとともにえびいも栽培に興味のある生産者を集めて昨年度に説明会を行いました。その結果、今年度は12名の生産者が新たに栽培に取り組むことになりました。

この記事を見て、えびいも栽培に挑戦してみたいと思っただ方は、是非普及センターに声をかけてください!



えびいも収穫・調製講習会(福知山市)



京都市中央卸売市場で他産地の品質を調査

京都府の「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、新商品を開発

(株) 椋本 菅農

長年、水稻中心の経営を続けてきましたが、所得の向上を目指して、加工の取り組みを始めました。米サイダーに続き、舞鶴市のどぶろく特区認定を契機に、生産した酒米「祝」を使用した、どぶろくの製造に取り組んでいます。

今回、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、赤い色のどぶろくの開発や販路拡大に向けたラベルやチラシの作成を行いました。今後、「京都市中丹いちおし商品フェア」に出店したり商談会に参加し、PRを進めていきます。



どぶろく「でんじろ」を手にする椋本さん

京都府で開発、水稻ブランド新品種「京式部(きょうしきぶ)」誕生

近年、全国各地でブランド米が誕生し、産地競争が激化しています。京都府でも平成29年度から新品種育成の取り組みが始まり、ようやく京都府オリジナル米新品種「京式部」が誕生しました。この品種は地球温暖化に対応し、夏の高温に耐えて品質が良く、大粒で収量向上が見込めます。また、コシヒカリと比較して、「香りが良い」「白くつやがある」「甘みがある」ことが特長です。来年度以降、京都の和食文化と結びつけた高級なイメージでPR戦略を展開し、本格的に生産・販売が行われる予定です。

中丹地域では今年度、7か所で試作を行い、大粒で多収性が確認できました。試験栽培した農家も、新品種に期待を寄せています。



ほ場を巡回し、新品種の生育を確認する関係者

新規採用職員紹介

主に土地利用型作物や農林女子関連を担当しています。作物が栽培され、生育していく様子を知ることができ、勉強になると同時に楽しさを感じています。よろしくお願ひします。(中丹西農業改良普及センター 野村技師)

京野菜はおいしく、見た目も多種多様で魅力を感じています。現在は主に綾部市の上林地域と、万願寺甘とう関連の担当をしています。まだまだ勉強中の身ですが、よろしくお願ひします。(中丹東農業改良普及センター 河連技師)



写真左:野村技師 写真右:河連技師



農業クイズの答え

- ①キュウリ ②チャ ③ナス(賀茂なす)
④トウガラシ(万願寺とうがらし)

6次産業化の紹介と今後の展望

合同会社「iicome」宮園ナオミさん

綾部市の上林地域で生産されたお米のおいしさに感動し、平成21年に大阪府池田市から移住し、水稻農家として就農しました。同時に過疎・高齢化によって耕作放棄地が増加する地域の将来を案じ、お米の消費拡大を図ることが地域の水田を守ることに繋がると考え、米を原料にした新しい加工品づくりにチャレンジしました。そして、2年前には「米粉」の専門会社を創業し、米の需要拡大につながる商品づくりに力を入れています。

また、京都府の事業を活用して「玄米ぼんせんべい」を開発しました。ぼんせんべいのフレーバーは6種類あり、幅広い層の消費者から好評をいただいています。



販売中の「玄米ぼんせんべい」



「玄米ぼんせんべい」を作る宮園さん

普及センター掲示板

後継者の育成等
よろしく
お願いします!

新しい農業士さんです

福知山市

指導農業士
佐古田 勇一さん



てん茶を中心にお茶の栽培・加工を行っています。JA 京都のくに茶業青年団に所属し、両丹茶のPR活動や品評会等の活動にも積極的に取り組んでいます。茶業青年団や青壮年部等の活動で仲間づくりを行いつつ、先輩農家が築いた功績を受け継ぎ、産地を活性化していきたいです。

舞鶴市

指導農業士
森 剛さん



万願寺甘とうなどの伝統野菜や、食卓を彩る真っ赤なトマト、笑顔こぼれるイチゴ等を栽培しています。農業には可能性があり、家族との時間を大切にできる仕事を。子供たちが農業を一つの職として選択してくれるよう、持続可能な農業を目指しています。

#おいしいはあわせ #元気もりもり農園

退任される農業士さん

福知山市

指導農業士
衣川 重人さん

福知山市

女性農業士
河野 悦子さん

福知山市

女性農業士
足立 恵子さん

舞鶴市

指導農業士
霜尾 政幸さん

舞鶴市

女性農業士
仲川 輝子さん

お世話になりました。



綾部市

指導農業士
西山 和人さん



農業は一つの経営体であり、一人で多くの役割を持たなければならないと考えています。

自分のこの経験を、これから農業経営者を目指している人に伝えることも、自分の大事な役割と考えています。

綾部市

青年農業士
西山 秀人さん



導入した新しい技術や設備、知識などを地域へと普及させることが重要と考えています。そのためには地域を担う一員として、様々な行事などに積極的に参加して交流を図り、地域に溶け込みたいと考えています。

農業機械に関する制度改正

一定の条件(※)を満たした場合、ロータリー・トラクター等の作業機を装着・けん引した状態のトラクターが公道走行できるようになりました!

※灯火器類、作業機の幅(1.7m以下)、運行速度、運転免許などの確認が必要です。詳しくは、農林水産省ホームページをご確認ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html



農薬の安全使用

農薬の使用基準は、農薬取締法により遵守することが義務づけられています。皆さんは正しく農薬を使用できていますか?

◎作物名

作物の名前が似ていても収穫物の大きさや重さ、収穫時期、収穫部位、収穫物の形態が異なる場合には、別の作物として農薬登録されることがあり、使用方法も異なる可能性があります。

例) トマトとミニトマト、レタスとリーフレタスなど

◎総使用回数

農薬の使用回数は、その農薬に含まれる有効成分ごとに制限があります。特に複数の農薬を使う場合には、異なる製品でも同一の有効成分を含むことがありますので、注意しましょう。

誤使用防止のため、散布前にラベルをしっかりと読み、使用基準を守って正しく農薬を使用しましょう。



農業クイズ ★答えは前のページ

Q. 次の4種類の花は、それぞれ何の植物でしょうか?



①



②



③



④

普及センターだよりのバックナンバーをwebで閲覧

今回で第30号の節目になる「中丹農業改良普及センターだよりの発行に当たり、平成16年の第1号から昨年度発行の第29号までを、中丹東農業改良普及センターのウェブサイトでご覧できるようにしました。懐かしい記事もありますので、是非ご覧ください。



“農薬はラベルをよく見て、安全に使用しましょう”